

開講日	2016年春季 水曜日 18:30-20:00	講義場所	医学部研究棟11階講義室A
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科学 教授 松川 則之		

科目概要 および 期待される 成果	【概要】21世紀は脳の時代と言われている。古くから培われてきた神経病理学的知見に加え、20世紀末から発展した分子生物学的手法により、神経精神疾患の謎が近年解明されようとしている。うつ病・統合失調症のみならず、アスペルガーを初めとした発達障害も神経シナプス構築・機能障害との関連が示されようとしている。一方、加齢変化に伴うアルツハイマー病やパーキンソン病など神経変性疾患のメカニズムも蛋白・脂質・遺伝子修飾や処理過程の機能低下に伴う神経ネットワーク機能障害である可能性が示されてきている。本講では、まず神経発生・分化および退行変性(老化)のメカニズムを理解する。この知識をもとに、発達障害・神経精神疾患や認知症を初めとした神経変性疾患の病態を理解する。また、その薬物的・非薬物的治療介入の可能性を理解する。 【期待される成果】神経機能の発達から退行変性までのメカニズムを理解した後に、神経ネットワークと障害に伴う機能障害(神経症状)を理解する。また、その再生・可塑性についての理解を深める。このことにより、乳幼児から高齢者に至る神経精神疾患・神経疾患の共通性と特異性を包括的に理解し、神経精神疾患・神経疾患患者への対応力を鍛える。		
目標とする 資格	医師(小児神経・神経精神科・神経内科) 臨床心理士 理学療法士 作業療法士 言語療法士 看護師 施設職員 等		

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	神経精神疾患と神経疾患総論	神経精神疾患と神経疾患の共通性・非共通性についての総論を行い、本講における目標を示す。	4月13日	教授 松川 則之 名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科学分野
L-2	2	神経ネットワークの重要性:シナプスの可塑性と神経変性	神経は領域間ネットワークとして機能し、その維持のための分子機構が重要な働きをしている。本講では神経シナプス構造とその機能を理解する。また、その可塑性と生命的意義を理解する。	4月20日	教授 飛田 秀樹 名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経生理学分野
L-3	3	神経発生と解剖	神経発生・分化過程と神経構造を理解する。	4月27日	教授 植木 孝俊 名古屋市立大学大学院医学研究科 統合解剖学分野
L-4	4	発達障害	近年発達障害を抱える患者数が増加し社会問題になっている。アスペルガー症候群・注意欠陥多動性障害・学習障害など発達障害の特性を理解し、治療介入法を探る。	5月11日	非常勤講師 宮地 泰士 名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野
L-5	5	知的障害	知的障害は人口の1%以上を占め、社会的な影響が大きい。近年の研究によりその病態の解明が進み、病態に基づく治療法が開発されてきている。知的障害の今日の理解を目指す。	5月18日	教授 齋藤 伸治 名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野
L-6	6	てんかん	近年、てんかんは社会的に話題にのぼることが多く、医療現場でもよく遭遇する疾患である。本講では発症メカニズムと症状の局所特異性からてんかんを知る。更に、その対応法と治療法を理解する。	5月25日	助教 服部 文子 名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野
L-7	7	認知症	近未来の重大な社会問題のひとつが認知症対策である。本講では現在どこまで解明されてきたのか、予防はどこまで可能か、神経科学的知見より探る。	6月1日	神経内科学 教授 松川 則之 名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科学分野
L-8	8	不安障害	社会環境の変遷に伴い、パニック障害や社交不安障害・強迫性障害が増加している。本講ではこれら不安障害の病態を理解し、その治療法・対応法を理解する。	6月8日	助教 小川 成 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野
L-9	9	統合失調症	連合障害と自閉を基礎症状とする古くから知られる疾患である。本稿では統合失調症病態がどこまで解明されてきたか、治療法の発展状況等本疾患の現状について理解する。	6月15日	講師 竹内 浩 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野
L-10	10	認知行動療法	近年認知行動療法は科学的根拠に基づいた心理療法として発展してきている。本講では本療法の科学的メカニズムを理解し、対象となる疾患や臨床実践における有用性を知る。	6月22日	助教 近藤 真前 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野
L-11	11	脳血管障害	高齢化に伴い、脳血管障害の発症頻度は増加し、患者QOLの観点から社会問題のひとつと考えられる。本講では脳血管障害発症メカニズムの視点から、予防法も含めて治療対策を理解する。	6月29日	助教 大村 真弘 名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科学分野
L-12	12	パーキンソン病	パーキンソン病の治療法は確立されてきておりQOLも10年以上維持できるようになってきた。本講ではパーキンソン病病態を理解し、その治療法と予防法を理解する。	7月6日	講師 大喜多 賢治 名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科学分野
L-13	13	うつ病	うつ病は就労年代の罹患患者が多いため、社会問題になっている。うつ病の病因は多要因であることが示されているが、本講では近年明らかにされつつ発症メカニズムを理解し、その対応法を習得する。	7月13日	教授 明智 龍男 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野
L-14	14	睡眠関連疾患	近年神経精神疾患の初期症状のひとつとして睡眠関連疾患の重要性が明らかになってきている。本講では睡眠メカニズムを理解し、対策を学ぶ。更に、神経精神疾患における睡眠障害の意義を理解する。	7月20日	部長 小栗 卓也 公立陶生病院 神経内科
L-15	15	神経リハビリテーション法	神経可塑性の観点からニューロリハビリテーションの有用性が分子生物学的に解明されてつつある。本講ではニューロリハビリテーションのメカニズムを理解し、神経疾患における有用性を実践より学ぶ。	7月27日	講師 植木 美乃 名古屋市立大学大学院医学研究科 リハビリテーション学分野